

世界のナシ・洋ナシ市場(抜粋)

FreshPlaza 2023年8月18日

概要 世界のナシ・洋ナシ(以下「ナシ」)市場は、一部の国での生産の減少と出荷先優先順位の変更により、今年はいくつかの興味深い傾向を示している。オランダでは、ヨーロッパのナシの予想収穫量が減少したことを受けて、ナシ生産者は用心深くも楽観的であり、ベルギーではイタリアの生産量の減少により良好な市況を予想している。ドイツでは、(陸続きの)ヨーロッパとトルコからのナシの入荷量が増加し、海外(南米等)からの輸入を上回っている。イタリアでは悪天候により出荷量が大幅に減少し、供給不足の可能性がある。スペインでは、厳選されたナシ品種に対する強い需要に牽引され、またイタリア産の供給の減少に後押しされて、市場は活気がある。南アフリカでは、ナシの輸出は昨年を下回ると予想されるが、為替の変動が希望の光となっている。中国のナシ園は洪水の影響を受けておらず、河北省では安定した収量を見込んでいる。北米ではワシントン州のナシの出荷量がわずかに減少した。一方、アルゼンチンのナシの輸出はヨーロッパ市場から離れて、近隣の中南米の輸出先を優先する方向にシフトしている。

ベルギー: 良好な収穫予測とイタリアの不作がベルギー産ナシの良い市場を示す ベルギーのある業者は次のように語った。「ベルギーでは大変素晴らしい収穫が近づいている。出荷量を見ると、地域によって多少異なっている。品質と同様に、春の降霜の影響を受けた園地があるので、そこでは樹上の果実は少し少ない。しかし、影響の小さい多くの園地では収穫量は減らないだろう。他国、特にイタリアの減収の予測と相まって、生産者の間では期待が高まっている。」(ベルギーは欧州で有数のナシ生産・輸出国で、コンフェレンス品種の主要産地)

「イタリアでは、かなりの不作に見舞われている。スペインの連絡先からは夏になってから予想よりも順調だと聞いている。多くのナシがとりあえずスペインに向けて出荷されたが、イタリアは今でもほとんど輸出ができないため、通常はイタリア産のナシが供給される国々でチャンスが生まれている。」

南アフリカ: ナシの輸出量が前年比で最大20%減少 ラングルーフ地域では降雹により、その前から前年比10~15%減少すると見られていたナシの収穫量がさらに減少すると見られる。今シーズンのナシの輸出量は、前年比およそ20%減と見込まれる。8月からはEU向けの輸出に関税がかかるため、中東、極東(中国、香港、マレーシア、少量がシンガポール)、インド等に輸出される。ロシア向けはこの数年で大幅に減少した。

中国: 河北省のナシ園は大洪水に見舞われていない 中国のナシのシーズンは始まったばかりで、今年のナシは7月から市場に入荷している。国の北東部にある河北省は、主要なナシ産地である。現在、河北省の栽培面積は10万ヘクタールを超え、年間360万トンのナシが生鮮市場に出荷されている。同省は昨年、史上最高の15万トンの生鮮ナシを輸出した。

河北省のあるナシ栽培・輸出業者によると、8月の最初の週到北京と河北省を襲った大規模な洪水は、この地域のナシ園に影響を与えていない。4月と5月に発生した15度を超える大きな気温の変化も、果実の品質に大きな影響を与えなかった。ほとんどのナシは春の中頃から収穫まで袋をかけられる。しかし、それは受粉にわずかな影響を及ぼし、生産量は10%減少すると予想される。

別のナシ生産者によると、今年のナシの品質は大変良い。ここ数週間の暑さは作物に悪影響を与えていない。この生産者は、出荷量は昨シーズンと同様になると予想している。

北米: 昨年に比べてナシの収穫量がわずかに減少 ワシントン州では、バートレット品種とスタークリームソン品種から収穫が始まり、他の品種がそれに続く。春の天候は理想的で、5月の暖かさが一部の品種の落果を招いたが、6~7月は涼しく果実の肥大と着色に最適であった。ある出荷業者は、「通常8月中旬に収穫を開始するため、予定通りであった。全体的な作柄は昨年を下回るだろう」と言う。

アルゼンチン: 近隣国への輸出を優先 業界団体が発表した最新の統計によれば、2023年前半の輸出量約23万1千トンは、2022年上半期の20万1,090トンに対し14.8%の増加となる。従来からの主要輸出先であるブラジルとロシアへの輸出は増加した(41%増の7万9千トン及び34%増の5万600トン)。そのほか、ヨーロッパ向けの輸出が前年比で減少した一方で、中南米諸国への輸出が増加した。